

# 校長会報

令和4年度 第1号  
発行所  
島根県小学校長会  
事務局  
松江市母衣町 55  
県教育会館内  
TEL (0852)27-8530  
FAX (0852)67-3360

## 未来社会を創る子供たちの姿を見据え 連携・協働して



島根県小学校校長会長

越野 和胤

(松江市立内中原小学校)

昨年度に引き続き、今年度も島根県小学校長会長に選任されました。会員の皆様のご支援・ご協力を得ながら各事業を推進し、本会をさらに活性化させることで、島根県の小学校教育の充実を図り、子供たちの健やかな成長のために努力したいと思います。

### 一 活動方針

二〇三〇年の社会は、グローバル化

の進展、少子高齢化・人口減少社会による労働環境・国際情勢の変化などにより、社会が急速に不安定・不確実・複雑・曖昧な状態に進んでいくと予想されています。私たち校長は、そのような社会を生きる子供たちに必要な力を育まなければなりません。その力とは、「学習指導要領」に基づき、各教科等において育む「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間力等」の三つの資

質・能力です。

私たちは、培うべき子供たちの資質・能力を明確に意識し、家庭・地域と連携して、社会に開かれた教育課程の実現と検証を図り、効果的なカリキュラム・マネジメントを確立していくとともに、グローバルな幅広い視野で教育活動を創造していくことが重要です。

これまで本県小学校長会は、会員相互のつながりをもとにして、真摯に研究と実践を積み重ね、本県の小学校教育の充実・発展と教育諸条件の整備に努め、成果を収めてきました。今年度は、百九十一名の会員がそれぞれの個性や得意な分野を生かしながら「未来社会を創るしまねの子供たちの姿」を慮り、その力を集結させ、子供たちの未来、島根の教育の未来に目を向けた活動を推進します。今年度は、「第七十四回全国連合小学校長会研究協議会島根大会」及び「第六十九回中国地区・第六十四回島根県小学校長会教育研究大会」の同時開催に向けた準備を

全員で進めながら、会員相互や関係機関等との連携・協働していく大切な機会としていきたいと考えます。

### 二 主な事業内容

- (1) 総務、調査研究、対策、広報の四部会を構成して事業を推進する。
- (2) 松江市小学校長会と連携し、研究協議会島根大会等を開催する。
- (3) 小・中学校長会合同して教育条件改善対策委員会を組織し、関係機関と連携を密にしながら教育条件の改善・充実に努める。
- (4) 本会の諸活動を記録し、会員の研修と連携を目的とした「校長会報」を発行する。また、HPを通して諸活動の広報にあたる。

## ウェルビーイングの

### 実現を目指して

副会長 藤原 幹 夫

(出雲市立塩冶小学校)



今年度、県小学校長会の副会長を務めさせていただくことになりました。微力

ですが精一杯役割を果たそうと思いません。よろしく願います。

さて、五月二十六日、二十七日、三年ぶりに開催された「全国連合小学校長会理事会・総会」に参加しました。その際、「宣言文起草委員」に中国地区を代表して任命され、案の段階から関わらせていただきました。その宣誓文の前文を紹介します。

「これからの我が国では、デジタルトランスフォーメーションによる社会構造の変化や多極化などがこれまで以上に進行することが予測される。また、持続可能な社会の実現に向け、国際社会における役割の重要性を認識するとともに、世界的な平和や地球環境問題など、世界の動向にも注視していく必要がある。このような中で、学校には子どもたちの学びの保障と多様な幸せとともに社会全体の幸せでもあるウェルビーイングの実現を目指し、一

人一人の可能性を最大限に引き出す教育を推進することが求められる。」

この前文の中で、聞き慣れない「ウェルビーイング」という言葉は、次期教育振興基本計画に盛り込まれます。その意味を調べると、「幸福」「健康」「肉体的にも、精神的にも、社会的にも満たされた状態」とあります。私は年度当初の職員会議で、「本校に関わる全ての児童・その家族、そして教職員とその家族が全て幸せになることを願います。」と述べたことを思い出しました。

話は大きくなりますが、鳥根県一九一校の子どもたち、教職員が「ウェルビーイング」を目指していきたくて、皆さんと一緒に進んでいきたいと思えます。

### 出会いに感謝

#### (副会長として)

副会長 岡田 憲 明

(浜田市立松原小学校)



今年度、鳥根県小学校長会の副会長を務めさせていただくことになりました。

昨年度末に、令和三年度の浜田市小

校長会長から、「来年度は、あなたが鳥根県の小学校長会の副会長をすることになるから。」と告げられました。前会長のお話によると、役員改選の約束の中に、副会長三名という決まりがあり、そのうちの一名は浜田・益田・隠岐管内から選出するということになっていて、令和四年度の輪番が浜田であるということでした。力不足であることは否めませんが、そこに向かっ

ていく巡り合わせとの出会いがあったのだと考え、お引き受けしました。また、今年度は、第七十四回全国連合小学校長会研究協議会鳥根大会が開催される年にも当たっています。初めて鳥根県小学校長会の理事会に参加させていただいて、昨年度から(もつと以前から)準備を進めて来られた、たくさんの皆さんがおられたことに、改めて気づかされました。

この立場と出会ったからこそ、気づいたことです。まだまだ、新型コロナウイルス感染症については予断を許さないところですが、どのような開催になるにせよ、県内百九十一名の小学校長会会員のお一人、お一人の力をお借りして、その力を結集していくことができ

て初めて、達成することができると思っています。困難な課題であると思います。ご協力、どうぞよろしく願います。

ただ、「子どもに向き合って、生きる力を育てる学校を創る」という大き

な課題を達成することを忘れることはできません。お二人の副会長とともに、越野会長を支え、「未来社会を創る子どもたちの姿を見据え 連携・協働」できる校長会の運営に携わっていきたく思います。一年間、どうぞ、よろしく願います。

### 「豊かに生きる」

#### 子どもたちのために

副会長 高橋 和 弘

(松江市立大野小学校)



今年度、副会長という大役を仰せつかりました。「未来社会を創る子どもたち

の姿を見据え」という越野会長の活動方針の下、鳥根県小学校長会一丸となってコロナ禍の中、校長の学びを止めず、学校教育の歩みも止めないよう少しでもお役に立てればと思っています。どうかよろしく願います。

昨年度は、事務局長として各市郡の理事の皆様をはじめ、多くの皆様に支えられながら努めてまいりました。至らぬことも多々あったと思いますが、ご理解・ご協力にあらためて感謝申し上げます。

今年度は、副会長として広報部に所属することになりました。県小学校長会の諸活動を県全体へ情報提供するとともに所属意識を高めてもらう役割と考えています。今年度は、「校長会報」及び「校長樹林」の作成について新しい方針を提案していく予定です。ご検討いただければ幸いです。

私は、「教育目標に『豊かに生きる』子どもたちの育成」という文言を入れています。子どもたちにとって一日一日を豊かに生きることが、将来の豊かさにつながるという思いからです。この度、改めて県小学校長会の活動方針を読み返しながら、わが校の教育目標を達成することが島根県の小学校長としての役割を果たすことだと再確認したところです。

今年度は、全連小島根大会の当該年度となりました。県小学校長会としては、実行委員会を全力で後押しし、検討準備を進め、これぞ島根県小学校長会という姿勢を示したいと考えています。オール島根の気持ちで県内百九十一名の力を結集しましょう。

お二人の副会長の先生とともに越野会長を支えて、島根の子どもたちのために尽力してまいりたいと思います。一年間、どうかよろしくお願いいたします。

### 令和四年度 島根県小学校長会

## 事業計画

#### \*島根県小学校長会

(1)活動の具現化、事業の推進を図るための会議の開催、関係団体の会議へ出席する。

①理事・評議委員会(一回)、理事会(四回)、常任理事会(一回)を開催する。

※六月理事会、七月常任理事会をオンライン会議とする。

②理事会は、総務、調査研究、対策、広報の四部会を構成して事業を推進する。

③第三回理事会の中で、県教育委員会との意見交換会を実施する。

④県の各審議会等に関係団体として参加し、小学校教育の立場から意見を反映させるとともにその目的達成に寄与する。

(2)学校経営に関する諸課題を究明し、本県小学校教育の振興と校長としての職能向上のために、松江市小学校

長会と連携を深めながら研究大会を開催する。

○第六十四回島根県小学校長会教育研究大会松江大会

(3)本県教育の充実を図るため、小・中学校が合同して教育条件改善対策委員会を組織し、関係機関と連携を密にしながら教育条件の改善・充実に努める。

(4)本会の諸活動を記録し、会員の研修と連携を目的とした「校長会報」を発行する。また、HPを通して諸活動の広報にあたる。

(5)教育計画や教育活動の記録等、日々の教育実践の効率化を図るため、「教育記録」の編集を行い、定期的に改訂していく。

\*全国連合小学校長会、中国地区小学校長会との連携

(1)全国連合小学校長会と連携して教育課題を究明し、課題解決にあたる。

①総会や理事会および各種委員会や担当者会に参加し、全連小との連携を推進する。

②「小学校時報」を購読するとともに、教育研究シリーズの購読を促進し自己研鑽を深める。

全連小の考え方や新しい教育情報や教育改革の動向、全国の校長会の活動を迅速に伝える「全連小速報」を活用し、学校経営に生かす。

③全連小と連携し、陳情・要望活動・実態調査活動を行う。

④「第七十四回全国連合小学校長会研究協議会島根大会」の開催に向けた準備を全国連合小学校長会と連携しながら進め、大会を実施する。

(2)中国地区小学校長会と連携し教育課題を究明し、課題解決にあたる。

①理事会・連絡協議会(一回)、理事会(一回)を開催し、連絡調整を図る。

②「第六十九回中国地区小学校長会教育研究大会島根大会」の開催に向けた準備を中国地区小学校長会と連携しながら進め、大会を実施する。

はじめまして  
新任校長より

「初心」をいつまでも



徳 永 勝 俊  
(松江市立生馬小学校)

初出勤した日の校長室の椅子の感触は今でも忘れません。

はっと振り向くと三十八枚の歴代の校長先生の視線。長い歴史の中で人が育ち、今があることを感じ、この地で勤める責任の重さを改めて感じました。昼に食事を買いに外に出たとき、初めて生馬小の子どもに出会いました。まだ見知らぬおじさんなので黙っておこうと思っていたのですが、子どもの方から「こんにちは」と。その自然な姿に、この子が学んできたこれまでを大切にしたい気持ちが高まりました。午後のふとした時に、改めて学校企画課からいただいた資料を読むと「ねばならない」を捨てること」とあり、肩の力を抜いて学校をみようと思つたことを忘れません。それから三ヶ月。教職員の献身的な態度と子どものきらきらとしたまなざしに私の方がやる気と勇気をもらっています。これからも、初めての生馬小での勤めた日に感じた「初心」を大切に、日々精進していきます。

持田小のテーマは、つながりあいです。  
自分と相手を大切にする力を育てます。



藤井 康二  
(持田小学校)

日本一の景色と子どもたちを誇るステキな学校です。  
水鳥に詳しくなりたいです。

“朝は気持ちのよいあいさつから”  
を心掛け、笑顔で子供たちを迎えています。



福岡 敏之  
(本庄小学校)

子ども達・保護者や地域の皆さん・教職員、みんなが大切にされ、みんなが成長できる来待小学校になるようにがんばります。



岩成 佳子  
(川津小学校)

今年は開校 150 周年。  
伝統を引き継ぎ、新たな気持ちで  
揖屋っ子とともにがんばります。



杉原 孝尚  
(来待小学校)

ひ かる  
が んばる  
じ しんまんまん ひがしっ子  
を合言葉にがんばります。  
よろしくお願い致します。



西 裕里  
(揖屋小学校)

昇降口で荒島っ子を待つ  
「あかるくげんきになかよく」の  
掲示を心に留め、学ぶ一年に  
したいと思います



伊達 悟  
(荒島小学校)



仙田 淳一  
(荒島小学校)

はじめの一步

永瀬 義美

(奥出雲町立三成小学校)



入学式、在校生代表の五・六年生が美しい歌声で新入生を歓迎しました。

『今日から 何もかもが 新しいはじめの一步 明日に一步』

勇気をもって大きく一步 歩き出せ！

新入生に歌われた曲ですが、私にも歌われているような気がしてなりません。年度当初の校長としての職務が一段落したところで、新たな一步を歩き出すために、地域をもっと知ろうと思いい立ちました。まず、始めたのが社会科副読本『わたしたちの奥出雲町』の精読。さすが児童向けに編集された資料集です。関心が他所にいくことなく限なく読むことができました。

次に、教育委員さんからいただいた「校歌に歌われている自然や歴史、文化などを子どもに語り伝えてほしい」という言葉に共感し、早速地元のア宕山に向かいました。頂から見える三成の景色にほんのり温かみを感じました。

今後も奥出雲町を堪能していきます。子どもや教職員、地域のひととともに…。

地域と連携し、「比田ファミリーでつくる笑顔あふれる学校」をめざします。



川本 徹 (比田小学校)

「あ」かるく  
「か」んがえ  
「や」さしく思いやる  
笑顔あふれる赤屋小にします。

「山中鹿介」のように強くてやさしい子どもばかりです。「チーム広瀬」で笑顔いっぱい、挨拶いっぱいの素敵な学校を目指します！



杉谷 崇 (広瀬小学校)

サメも泳ぐ水族館  
わくわく！学校の自慢  
学びもわくわく！笑顔輝く  
北浜小を目指します



越野 浩一 (赤屋小学校)

「力…たくましく」  
「夢…かしこく」  
「愛…なかよく」を  
合言葉に、児童・教職員ともに  
楽しく過ごしていける学校を  
めざしていきます。



佐野 美保 (北浜小学校)

「か」しこい子、  
「み」んななかよしな子、  
「つ」よくたくましい子、  
「わくわく」する子、  
『か・み・つ・わくわく』が  
合言葉の本校です。

毎日、HPに「夢をもち心豊かに  
たくましく生きる子ども」の  
育ちを更新しています。



須田 勉 (吉田小学校)



森山 章子 (上津小学校)



高木 敏光 (阿用小学校)

川本の地で 笑顔に…

星野 明洋

(川本町立川本小学校)



川本小学校に赴任することになりました。この川本町は、私にとって祖父母の

住む町。幼少期に幾度となく訪れた町で何かしらの縁を感じています。

ただ、赴任地としては初めてなので、川本町について紹介されているホームページをいくつか見てみました。

川本町は、県のほぼ中央に位置し、離島を除き最も小さな町。古くは、江の川の水運による石見銀山の玄関口。石見地方の要衝として発展した町。今では、健康食品エゴマの栽培で知られる町。ほかにも様々なことが紹介されており、町の情報を得るにつれ、「実際に見聞きしてみたい」と、楽しみも膨らんでいます。

川本小学校の子どもたちは、とても素直で元気です。毎朝、素敵なあいさつをしてくれたり、笑顔で「校長先生～」と言って手を振ったりしてくれます。また日々の授業や行事などにも一生懸命に取り組んでいます。うれしい限りです。

川本小学校の合言葉は「えがお かわもと」です。えがおやほほえみでいっぱいになるように、子どもたちや職員、多くの方々に支えていただきながら努力していこうと思います。

志々小学校に誇りを持ち、自分に自信が持てる子どもを育てていきます。



竹下 透  
(志々小学校)

学校に係わるひと・もの・ことを生かした学校経営をしていきたいと考えています。

“やってみよう つながろう やりぬこう”をスローガンに、いきいき波佐っ子を育てます。



池辺 恭一郎  
(波佐小学校)

「いいあみ」を合言葉に、「たくましく生きる子どもの育成」を目指します。



下隅 義久  
(五十猛小学校)

囧かやま大好き、囧しこく進んで学ぶ、囧さしく思いやりのある、囧い日元気でたくましい高山っ子を育てます。

「かしこく わ・・・ なかよし み・・・」与えられた時間の中で子どもと保護者と地域と職員ですてきな「わ」と「み」を見つけないと思っています。



田中 岳志  
(川波小学校)

あかるく、たくましい子すすんで、学ぶ子なかよく、助け合う子の阿須那っ子をめざします。



中村 卓夫  
(阿須那小学校)



周藤 義亮  
(高山小学校)

日々思ひごと



小石 伸江  
(益田市立豊川小学校)

不安感と生来の変化好きな性格によるわくわく感をもって赴任しました。

前職の時、何度も訪問した豊川小学校ですが、職員になってみると、子どもや職員の熱い息吹や豊川地域の方々の学校愛と支える力強さを肌身感じます。今は、周りの人々のエネルギーを吸収したり、出来事から学んだりと、毎日が『新鮮』の連続です。

さて、皆さんは一日の中で一番好きな時はいつですか。私は夕暮れ時です。しっとりとした空気分、一日が終わった安堵感と充実感を感じられるからです。また、夕食と明日への期待感も…。  
これからも、毎日の夕暮れ時を楽しめる、ちよっぴり心の余裕のある自分であり続けたいです。



白井 朋己  
(石見東小学校)



学校の合言葉  
「わくわく登校 にこにこ下校」  
を目指してがんばります。

北野 憲民  
(柿木小学校)



「六小っ子 めざせ 一人立ち」  
誰もが“一人立ち”を実感できる  
学校づくりをめざして！

大庭 泰二  
(六日市小学校)



子供たちを温かく見守ってくださる  
地域と自校給食の美味しさに  
感謝する毎日です。

中村 孝志  
(福井小学校)



「ハートアップ、学力アップ、パワーアップ」  
を合言葉にチーム福井小で頑張ります。

吉山 明利  
(有木小学校)



一人一人を大切にし、  
子どもたち、教職員が力を伸ばし、  
輝ける学校経営に努めます。

子どもあつての学校

宇野 陽子  
(隠岐の島町立北小学校)



水木しげるロードの終着点がそばにある隠岐の島町立北小学校は、二つの小学

校が統合した学校です。現在、全校児童は十九人。今年度の新入生はなく、入学式がありませんでした。校長として着任し、その職務の一つ一つに緊張しながらも、入学式がないのはやはりさみしく、子ども一人一人の存在の大きさをひしひしと感じながらひと月が経ちました。  
自然に囲まれた地域で育った十九人の子ども達は、明るく大らかで、お互いを認め合える関係性があります。新参者の私にも「宇野校長先生、お仕事ありがとうございます。なかつたら遊びましょう。」と、校長室に遊びの誘いに来てくれます。共に過ごしながら「この子達が自分の力を存分に発揮できる学校であり続けられるよう頑張らなくては！」と背筋が伸びる思いになります。  
子どもあつての私たち。加えて教職員あつての私。順風満帆な時には子どもや教職員に感謝し、そうでない時は子どもや教職員に責任転嫁せず、真摯に向き合っていこうと思います。

## 学校紹介

目指せ！地域を明るくする学校

西から日が登る小学校

三 島 伸 仁

(雲南市立西日登小学校)

朝、木次の街を抜け、国道三一四号線を南に走ると、二十四人の全校児童に対し、これだけ多くの方に見守っていただけるのかと驚くほどの温かいまなざし。さらに進むと体育館に大きく「西日登小学校」の看板。数多の伝説が残るこの地区で百五十年の歴史を誇り、「西から日が登る」奇跡の名前をもつ私達の学校。国道から脇にそれると昭和六十一年の校舎完成時、当時の玉木校長が「全国的にも稀にみる斬新な校舎、願いや夢が託された施設設備」と表現した、また、当時六年生の佐々木俊二さんが「スキップしたいほど嬉しい」と完成式で挨拶した我が学校に到着。

校門横には本校のシンボル、くすの木が堂々と児童・職員を見守ってくれている。はるか遠くから挨拶をしながら登校する児童の手にはタブレットとピアニカ。ICT活用はもちろん、自主的にピアニカを持ち帰り、家庭で練習してくる子ども達。

玄関、校長室と職員室の前には多彩

な植物が飾られる。まさに心豊かな教育環境。その植物の上には「立ち上ぐれ、にっ子！みんなで助け合い、笑顔いっぱいな学校にしよう」のスローガンが掲示されている。

突然、校長室に大きな声が。「校長先生、おはようございます」。続けて「先生おはようございます」と隣の職員室にも同様の挨拶をしてくれる児童達。

階段は本校シンボルカラーのオレンジ。下から見上げると、まさに陽が登るライジング・サン。

チャイムが鳴らなくても自席に座って待つ児童。授業が始まれば教室ではデジタル教科書をフル活用、内容によつては少人数をいかした全校活動や地域の皆様との取組。保護者や地域の皆様には、学校のために多大な協力をしていただいている。これは当たり前なことではない。我々は真摯に教育活動に取組み、地域を明るくしなければならぬ。そのことが本校に課せられた責務であると感じる。

立哨中、地域の方に「やっとな身赴任が終わったのに、また遠い平田(出雲市)から毎日ありがとうございませ」と言われると、微力な私は、減相もないと恐縮するのである。私達職員はこういう地域の方々への期待に応えなければいけない。そう思うと今日もオレンジの階段を上がりながら気が引き締まるのである。

なかよし班活動は

来島小学校の生命線

山 崎 延 男

(飯南町立来島小学校)

来島小学校と小田小学校が統合して、新生・来島小学校がスタートしたのが十七年前。統合以来、縦割り班(通称なかよし班)による活動が練り上げられてきました。当時七十九名だった児童は、今年度は五十二名、なかよし班は四班(十二〜三名ずつ)という構成となりました。児童数が少ないことによる課題はありますが、逆に、縦割り班の活動には少人数ゆえの教育的効果が期待できます。

主体的・能動的に学校行事や児童会活動等に取り組むようになります。一人一人の役割が大きいです。「あなたにやってもらわないとうまくいかない」という状況が常にあり、自然にそれぞれの得手不得手を互いにカバーして役割を果たすようになります。

上学年にリーダーシップが、下学年にフォロワーシップが醸成されるのも縦割り班活動による所が大きいと思います。キャリア・パスポートの記述を見ると、高学年には「みんなをまとめろ」「今までの六年生のように」「六年生をフォローする」という表現が、中学年には「下の学年にやさしくする」

「積極的に声をかける」という表現が、個々の目標に多く盛り込まれています。自分がしてもらったことを、今度は自分がするのだという意識が継承されていることがわかります。

本校のなかよし班は、掃除や全校遊び等の日常的な活動、全校遠足や運動会、縄跳び大会等の学校行事で、四つの班を八班に分けたり二班に合体したりしています。五月には、班のメンバーは固定しています。五月には、班のメンバー同士の間がりを強めるため、地元の琴引山に登山遠足に出かけました。途中から高学年にリュックを持ってもらって低学年、疲れたそぶりを見せようとしないう高学年。そして、「ここ、滑りやすいから気を付けて」「もう少しだからがんばろうね」という声が、どの班からも聞こえてきて、遠足の目的は十分に達成されました。

なかよし班活動は、豊かな人間関係を育み、ひいては学習に向かう意欲を醸成します。今後も小規模校ならではの良さを生かした教育活動を展開していきたいと思っております。





## 地域とともにめぐる

### 学校をめぐる

#### 南口 周哉

(江津市立桜江小学校)

桜江小学校は、江津市南部に位置する全校児童百三名の学校です。学校近くには中国太郎の異名をとる江の川が流れており、周囲を田園や山々に囲まれた自然豊かな地域にあります。この江の川を起点とした恵みがたくさんある桜江町は、学習教材の宝庫であり、校歌の歌詞にある「このふるさとにまなぶよろこび」を具現化した学習活動を日々展開しています。

毎年六月は、学校から歩いて五分のところにある今井美術館で開催されている院展(県内で二カ所のみ)に、全校で見学させていただいています。全国を巡回している入賞作品の数々はどれも迫力があり、見るものを惹きつけます。「影や光の差しかげんによる反射や水面の感じなど、色の具合を自分の作品に生かしたい」など、子どもたちの感想からも作品を鑑賞する目、そして豊かな心が育まれていると感じます。

桜江町の特産品であるえごま、桑茶、ごぼう等の学習では、地域の自然を知り、自然の恵みのありがたさなど

を感じる学習となっています。それに加え、そこに携わる人の熱い思いにふれることは、自分の生き方につながるキャリア教育にも一役かっています。

そして、ふるさと学習の集大成となつていくのが、六年生の三学期に行う伝統工芸の勝地半紙の学習です。最終的には、勝地半紙で紙すきを行い、自らの手で自分の卒業証書を作成します。式当日に授与される卒業証書は、世界で一枚しかない自分の宝物、このふるさとで六年間学んだ証として大事にされています。

このように、学校だけでなく、地域との関係を大切にした学習を通して、地域のよさを知り、ふるさとを誇りに思う心が育っていると感じています。今後は地域の方からしてもらっただけでなく、その学びを地域に還元したり、子どもたち自らが地域に貢献したりすることも重要です。子ども

たちが地域の中で育ち、夢に向かって羽ばたけるような教育活動を展開していきたいと思えます。



### 木造校舎に全校児童の数だけ 学校目標のポスターが掲示されます。

#### 小寺 博喜

(浜田市立雲雀丘小学校)

雲雀丘小学校は、浜田港を見下ろせる高台に位置し、校庭は、その昔に植樹されたであろう桜やイチヨウの他、数多くの樹木に囲まれています。そのどれもがかなりの大木。味のある木造校舎の風合いもあり、すぐ近くを国道や鉄道が走っている市街地にあるとは思えないほどです。住宅街から登校してくる子ども達も、最後は人一人が通れるだけの「赤道」を上り大木の間を通過してやってきました。

今、この木造校舎に、全校児童五十名分のポスターが貼られようとしています。五月の全校朝礼で、学校目標について児童達に尋ねたところ、ほとんどの児童がその存在を意識していませんでした。そこで、私から児童にお願いをして、学校目標のポスターを作ってもらうことにしました。学校目標



「自らかかわろう、自ら学ぼう」の文字に、自分の思うように色を塗ったり周囲に飾り絵を描いたりして、自分が掲示したい場所に貼ります。ポスターの装飾も掲示する場所も児童一人一人が自己決定します。作成の期限は設定していませんが、休み時間など

を使つて作られており、すでに児童の半数以上のポスターが掲示されています。新しく掲示されているポスターを見つけると、私は「どうしてこの色で塗ろうと思ったの?」「どうしてこの場所に貼りたいのか?」など質問して、児童の想いを確かめます。すると、装飾にも掲示場所にも、児童一人一人のこだわりや理由があることがわかります。この取組をきっかけにして学校目標が児童に浸透していくことを楽しみにしています。

コロナ禍で制限されている活動がたくさんあります。しかし、コロナに関係なく、できているようでできていないこともたくさんあります。今は、そうしたことに目を向け、取り組み直すよいチャンスなのかもしれません。



## 令和4年度 島根県小学校長会 役員表

役名	校長名	勤務校	役名	校長名	勤務校
会長	越野和胤	内中原	全連小理事	越野和胤	内中原
副会長	藤原幹夫	塩治		藤原幹夫	塩治
	岡田憲明	松原	全連小代議員	岡田憲明	松原
	高橋和弘	大野		高橋和弘	大野
監事	江戸宣文	十神	中国地区理事	高橋和弘	大野
	寺下利弘	海潮		玉木康之	忌部

## 理事

市郡名	会員数 (学校名)	理事名	評議員名	対策委員名
松江	31	住久由樹子(中央)	三賀森卓司(乃木) 高尾康弘(出雲郷)	石橋裕子(佐太)
安来	17	㊦加藤潮(鳥田)	江戸宣文(十神)	門脇岳彦(井尻)
出雲	33	長澤学(今市)	加田孝志(大社) 村上真澄(西田)	㊦松浦和之(西野)
雲南	15	原元宏(掛合)	寺下利弘(海潮)	㊦寺下利弘(海潮)
仁多	10	㊦桑山悟(高尾)	長谷川勝一(阿井)	㊦(白根誠治)(仁多中)
飯石	4	和泉雅史(頓原)	(理事兼務)和泉雅史(頓原)	㊦竹下透(志々)
浜田	16	㊦細川寿俊(長浜)	佐々木伸(石見)	㊦上部孝雄(雲城)
大田	15	矢田悦夫(大田)	石田勇(久手)	㊦小松原弘之(朝波)
江津	7	山崎智則(高角)	小田公弘(江津東)	㊦南口周哉(桜江)
邑智	11	㊦木村真介(口羽)	落合克彦(高原)	㊦中村卓夫(阿須那)
益田	14	㊦岡本昌浩(吉田)	森脇達也(吉田南)	宮崎晃(東仙道)
鹿足	9	岡本博(七日市)	河野直樹(青原)	糸賀昌幸(蔵木)
隠岐	9	㊦吉田貴弘(五箇)	宇野陽子(北)	㊦福本美由紀(磯)

(会員数 191) ㊦印 常任委員会 理事 ㊦印 教育条件改善対策委員会 理事 ㊦印 小・中代表

## 事務局幹事

校長名	勤務校	会務分掌	所在地	☎・FAX	校長名	勤務校	会務分掌	所在地	☎・FAX
飯塚由紀子	島根	調査研究	690-0401 松江市島根町加賀 1325-1	85-2018 FAX 85-2134	松尾隆恵曇	広報	690-0323 松江市鹿島町手結 201	82-0065 FAX 82-0931	
澄川弘敏	城北	調査研究	690-0871 松江市東奥谷町 229	21-4944 FAX 21-4980	佐藤淳大庭	調査研究	690-0033 松江市大庭町 1074	21-4239 FAX 21-4311	
野津明久	竹矢	対策	690-0025 松江市八幡町 379-1	37-0535 FAX 37-2814	徳永勝俊生馬	対策	690-0865 松江市西生馬町 8	36-7614 FAX 36-6104	
田中晶子	秋鹿	広報	690-0262 松江市岡本町 992-1	88-2007 FAX 88-3156	玉木康之忌部	総務・事務局長	690-0036 松江市東忌部町 915-1	33-2017 FAX 33-2361	
安達利幸	宍道	対策・事務局次長	699-0401 松江市宍道町宍道 1276	66-0352 FAX 66-0565	建岡浩子	事務局事務局員	690-0886 松江市母衣町 55 島根県教育会館内	27-8530 FAX 67-3360	